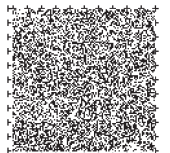




表紙デザイン作者：浦谷真^{まゆ}夕さん（イラストレーター、和歌山県有田市出身）

りいぶる★アイ 25周年記念事業 小島慶子さん講演会
講座レポート
「みんなに男女共同参画」提案事業

今号の
注目記事



“りいぶる” 25周年

小島慶子さん講演会



『あした、笑顔の私に会うために
～変化の時代をしなやかに生きる～』

講師：小島慶子さん（エッセイスト・タレント）
令和6年1月20日（土）和歌山ビッグ愛1階 大ホール

小島さんは、はじめに、男はこうあるべき女はこうでなければという考えにこだわっている人は、居場所がなくなり生きづらい世の中に変わってきていると指摘し、ジェンダーに起因する自身の体験を例にあげながらお話されました。

大学卒業後、自立を夢見て就職したテレビ局で待っていたのは、若い・可愛い・従順な“女子アナ”と言われるジェンダーの壁でした。“女子アナ”

という言葉は小島さんがなくしたいものの一つで、あるテレビ局が1980年代終わりに、自局の女性アナウンサーをアイドル的に売り出す際に使った言葉で、それが女性アナウンサーをさす言葉となり、やがて女性アナウンサーの役割やあるべき姿など人々の既成概念をも作っていったと説明されました。“女子アナ”像にあてはめられることに反発を感じた小島さんは、周囲から生意気、反抗的とみられ仕事が減ったそうですが、上司の計らいでラジオに活路を見出し自分らしい働き方ができるようになったと言います。テレビでは問題児だった小島さんがラジオでは面白いと肯定的に受け入れられ、環境が変われば同じものも異なった見方をされることを体験されました。

一度きりの大切な人生、誰もが活躍できる社会をつくる事が大切だと話され、少し自分の行動を変えるだけで確実に世の中が変わると説かれました。例えば、誰かが見下されたり馬鹿にされたりしている場面で、皆が笑っていても自分は笑わないなど、気がついたら、その時から行動することを呼びかけられました。

また、誰にも等しく機会が与えられ、幸せだと思える社会が求められる一方で、現実には性的少数者というだけで差別されたり、理系大学進学の際の学生への対応で、男の子は応援されるが女の子はブレーキをかけられたりと男女で対応に差がある事例を紹介されました。

夫が働き盛りで離職した時、「働いていない男性を尊敬できない」、「稼ぎがない人より稼ぎがある人の方が偉い」という気持ちが自身の中にあることに気づいて驚いたことも率直に話されました。しかし、小島さんは、その考え方を換え、夫は収入や肩書と引き換えに“多くの時間と自由”を手に入れ豊かに生きられるのだと思うようになったそうです。そして、小島さん一家は、2014年に当時小学生だった2人の子供たちを連れてオーストラリアに移住し、自身は仕事のために東京とオーストラリアを往来する二拠点家族を始められました。

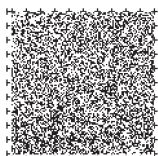
夫は専業主夫として家事や子育てを担い、小島さんは日本で仕事をして家族を支えるスタイルで、息子たちにも、経済的自立は生きるうえでリスクを減らせるが、人は収入や肩書では計れないと伝えているそうです。

最後に、変化が激しいこの時代、昨日とは違っても、かたちを変えて生きていける社会をつくる必要があるのではないかと問いかけ、自分と違う考え方や判断を受け入れることで、働き方、家族の関係などの様々なかたちを許容することができるのではないかと結ばれました。変化の時代を柔軟に生きぬくための示唆に富んだ講演会となりました。

ウェルカムミュージック



ひろこ
ヴァイオリン：福田紘子さん チェロ：福田浩丈さん



記念事業を開催しました！

令和5年度 男女共同参画啓発

ポスターコンクール最優秀賞表彰式

受賞されたみなさま、おめでとうございます！



北出さん 小島さん

布目さん 齋藤さん

【小学生低学年の部】



ぬのめ 布目 ゆずさん
和歌山大学教育学部
附属小学校 3年

【小学生高学年の部】



こじま かな 小島 葉奈さん
和歌山大学教育学部
附属小学校 5年

【中学生の部】



さいとう はる 齋藤 温さん
田辺市立高雄中学校 1年

【高校生生の部】



きたで わかな 北出 和奏さん
和歌山市立
和歌山高等学校 2年

記念展示

“りいぶる” 25年の歩みを
年表で振り返りました。



「明日を紡ぐ “ことのは展”」に
入選された方の作品25点を展示しました。

健康笑顔 Live !

～頑張らなくていい『〇〇』になる～

講師 わかきん先生
(わかやま健康大使)

令和6年1月19日(金)
“りいぶる” 会議室C



実際に身体を動かしながら、現在の健康を維持・向上させる方法を学びました。元消防士の講師は、予防医療・未病対策が一番大切との思いから、自ら考案した「わかきん体操」を紹介。参加者に身体の仕組みを説明し、健康寿命を延ばし個々の生活を快適にしていましようかと伝えられました。

生きがい教室

50代から始める生前整理

～親のため・自分のために～

講師 吉田圭美さん
(整理収納アドバイザー)

令和6年1月21日(日)
“りいぶる” 会議室A



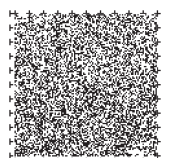
急な入院、親の死や災害時など、いざという時に備え、また未来を快適に過ごすため“片付け”を学びました。

講師は整理には、モノ・お金・心の3つの視点が必要で、整理のメリットを具体例を挙げながら説明され、「減らす」「分ける」「収める」の順で片付けるコツを教えてくださいました。

その他、「シアターCafé “りいぶる”」にて、令和6年1月19日(金)に『Coda コーダ あいのうた』の上映会を開催しました。

たくさんの皆さまのご来場、ありがとうございました。

令和6年4月から「和歌山県ジェンダー平等推進センター」に名称が変わります



10/14

(土)
“りいぶる”
会議室A

大学生キャリアデザイン講座

男女共同参画ワールド・カフェ ～大学生と“若手”社会人の本音ミーティング～

講師・ファシリテーター：金川 めぐみさん（和歌山大学経済学部 学部長 / 教授）
オブザーバー：本庄 麻美子さん（和歌山大学経済学部准教授）



男女共同参画の視点を踏まえ、大学生が若手社会人の声を聞き、自身のキャリアデザインを考える講座を開催しました。

個々に「私の未来想像シート」を記入し、講師の金川さんが「数字から読み解く男女共同参画」として日本の男女平等度や男女の賃金格差、国際的に比較した夫婦間の家事・育児時間の偏りなどについて解説されました。それをもとに参加者たちは、①「男女での違いや共通点」②「理想の未来を実現するためにどうするか」をワールド・カフェ※形式でグループディスカッションを行いました。

理想の未来を実現するために、こんな意見ができました！

- ・相手とコミュニケーションをとって共有すること 金川めぐみさん
- ・周囲の理解（社会・職場・個人ができること）
- ・明確なキャリア・積極的な挑戦・柔軟性



本庄麻美子さん



※小グループで席替えをしながら議論を深めていく手法のワーク。あたかも参加者全員で話し合っているような効果が得られる。

魅力ある女性リーダー養成講座

9/21
(木)

Part. 2 スキルアップ講座「アサーティブコミュニケーションを学ぶ」

会場：“りいぶる” 会議室 A

講師：谷水美香さん〔ヒューマン・トータルバランスサポートりと代表 / アサーティブコミュニケーショントレーナー 精神保健福祉士〕



講師は、『アサーティブネス』とは、1950年代にアメリカの心理療法から始まった適切な自己主張のことで、相手の真意を確認しながら、自分の要望や提案を正しく相手に理解してもらえるように伝えて問題解決を図っていくシンプルなスキルで、根底にある自他尊重のマインドを大切にコミュニケーションだと説明されました。人にはそれぞれコミュニケーションの「癖」があり、そのタイプは大きく「攻撃型」「受身型」「操作型」に分けられると解説され、参加者はそれぞれ自分自身のコミュニケーションのタイプに気づく時間を持ちました。その上で、自分の考えや要求などを相手に率直に伝え、相手の言い分にも耳を傾けることができるコミュニケーション手段であるアサーティブ型は、自分も相手も責めずに、問題解決のために相手と一緒に取り組むことができるコミュニケーションだと述べられました。

（アサーティブネス実践の心構え）

- 【誠実】自分の気持ちに素直に誠実に向き合う。
- 【対等】人としての尊厳は等しく対等であることを意識する。
- 【自分側の責任】相手とのコミュニケーションの責任の半分は自分にもある。
- 【率直】伝えるときは、簡潔に話の内容を整理して伝える。

【参加者の声】 「実際に練習をしてみて気付くことが多かったです。色々伝えたいことを追加せず、シンプルに事実を伝えた方が良いということがわかりました」 「事実のみを伝えることが大切、相手を納得させる必要はないという事が目からウロコでした」 「ロールプレイングで実感することができました」

10/6
(金)

Part. 3 スキルアップ講座「コーチングを学ぶ」

会場：“りいぶる” 会議室 A

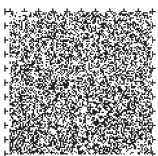
講師：國弘隆子さん（有限会社 Office Creation 代表取締役）



講師は、コーチングとは、相手の可能性を引き出し、その人の自主的な成長をサポートするコミュニケーションスキルのことであるとされ、コーチングを使う立場の人は、前提として「人間は誰もが無限の可能性を持っていて、『答え』はその人自身の中にある」という考え方、そして①「equal」のスタンス（人として平等）②「Let's」のスタンス（マラソンの伴走者のように）③「味方」のスタンス（常に味方である）という3つのスタンスを持つことが重要だと解説されました。

さらにコーチングスキルには、「積極的傾聴」「承認」「質問」の3つが必要で、それぞれの効果、ポイントや種類について具体的な例を挙げながら説明され、ペアワークを通して実践しながら学びを深めました。

【参加者の声】 「具体的にどうすれば良いかが分かったので、相手の話したい事や気持ちを引き出せるコーチングをしたいと思います」 「目的目標の意識を持って傾聴ができるように経験をつんでいきたいです」 「人の話を聞く事、聞き方にスキルが必要であると理解できたので、職場で実際に使えるようになります」



"りいぶる" 語り合い広場

10/28
(土)

よりよい明日をつくるための『大人の公民講座』
～社会のトリセツ・選挙のしくみ・政治とは?～

講師：大島もえ さん（愛知県尾張旭市議会議員） 会場：“りいぶる” 会議室 A



政治分野の女性の参画をすすめるため、政治のしくみや生活と政治のつながりを考えました。講師は、政治家はルールや社会のしくみをつくる人であり公民はこの世で生きる処方箋であるとし、選挙があるから政治家を選び社会を変えることができると説明されました。また、皆が当事者意識を持ち社会の一員であることを自覚して社会参画することが必要で、「どんな社会で暮らしたいか」を考え投票することも大事だと強調されました。

社会は多数派を中心に回っているが、誰もある面では多数派でも別の面では少数派になるという両面を持っているので、別の眼鏡をかけて違和感に気づくことが大切で、多数派のルールで少数派が辛い立場に陥っていないかを常に考えておく必要もあると述べられました。公平（Equality イクオリティ）は、全員に同じ高さの踏み台を用意することだが、公正（Equity イクイティ）は、個人に合わせた踏み台を用意し同じスタートラインに立てるようにすることで、最近誰も十分力を発揮できるよう環境を整える公正の考え方が主流とのこと。一人ひとりの政治参加とは個人的なことを社会的なことにすることとし、自分自身が疑問に思うアンテナ（感性・視点）を張り、社会の問題として提起することだと結ばれました。

【参加者の声】 「政治や選挙について事例をあげて説明していただいたので、すごくわかりやすかった」 「中立の考え方、傾きを理解した上での中立というお話が印象に残った」 「政治とは、政治家だけで行う事ではなく、ハンデに目を向ける事により、一般質問や委員会にて発表し変革できると感じました」



11/26
(日)

『男性問題』の時代？
～男性たちにも変化が必要では！～

講師：伊藤公雄 さん（京都産業大学客員教授） 会場：岩出地区公民館

ジェンダー平等への関心が高まり男性の介護・育児の法整備が進む中、男性自身が価値観や生き方への戸惑いを感じる男性問題を考える講座を開催しました。

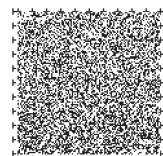
講師は、国内外の歴史的な変化やジェンダー平等への歩みなどを振り返り、日本は明治以後の近代化に伴い男女格差が拡大したと説明されました。また、1970～80年代にヨーロッパでは少子化による労働力不足から女性の労働参画が進んだ一方、日本は団塊の世代が労働力となったことに加え、男性の長時間労働と女性が家事を負擔しつつパート労働をすることで経済が成長できたため、女性の社会参画が進まず、この時代に「固定的性別役割分担」が広まったと解説されました。

これまでの男性主導社会が変化してもなお、弱音を吐けない、強くなければなど「男らしさの呪縛」にとらわれ、経済的・精神的等に「奪われているという感情（剝奪感情）」が男性の中に生まれつつあると指摘されました。そして世界的に多発する無差別暴力事件の背景にも、多様性に対応できない「男性の理由なき暴力」があるのではないかと話され、課題を抱える男性への対応は政策的に進める必要があるとされました。

ジェンダー平等社会を実現するためには、意識が変化し始めている若い世代（男性を含む）の声に耳を傾け、個人が力を発揮できる性別をも超えた多様性に富んだ社会へ進むことが必要だと結ばれました。



【参加者の声】 「ジェンダーの問題が、歴史や経済等と深く関係していることを学べて良かったです」 「ジェンダー平等の国ほど元気だと分かった」 「その地域や時代、文化とジェンダーが深く関わっているんだなと思った。『男らしさの罫』という言葉が印象に残った」



ヒューマンライブラリー りいぶる '23

2023年12月2日(土)

会場：“りいぶる” 会議室C 13:30~15:30

ヒューマンライブラリーとは、「人を貸し出す図書館」。語り手を「本」になぞらえ、図書館で本を読むように直接対話することでお互いに理解を深め、生きている「本」を楽しむものです。



今回は、自身の子供が不登校になった経験をもつ「にじいろ母ちゃん」、結婚・出産を経ながら絵を描き続ける「絵描きのあずさ」、男性社会である林業の分野で働く「女性林業従事者」、通勤途中のバスで出会った小学生と交流を深めた視覚障害のある「小さな声に助けられた人」の4人の方が『本』となり自身の経験や生き方を話され、延べ47人の参加者と対話しました。

参加者の感想には「言葉は声を使って聞くとそれ以上の感情が伝わってくる感じがして、とても良かった」「自分が経験のない生き方を知ることは大変興味深く、まだまだ目標を持って生きていきたいと思った」などがありました。



「女性に対する暴力をなくす運動」期間(11月12日~25日)にパープルリボンキャンペーンを開催しました。

令和5年度のテーマは「心を傷つけることも暴力です。一ひとりで抱えず、最初の一步をー」(内閣府)でした。“りいぶる”では、DV(ドメスティック・バイオレンス)は個人の問題ではなく、社会の問題として考えてもらえるように、DV防止への理解と啓発のため、来館者の方への声かけを行い、メッセージを書いていただきました。



- ・DVは愛じゃない。犯罪です!
- ・支配ではなく、対等な関係を! 家庭でも職場でも。
- ・DVかも? そう感じたらすぐ相談しよう!
- ・一人で我慢せず、周囲にSOSを出しましょう!
- ・あなたの声が届きます。すぐ近くにパープルリボン。
- みんなで無くそう、ハラスメント!
- ・“No”を言う気持ち、“No”と言われてあきらめる気持ち、大切に。
- ・あらゆる暴力に反対! 女性・男性問わず、すべての人が尊重される社会を!

来館者の方に、紫の濃淡のリボンを貼ってもらい、ビッグリボンを完成させました。

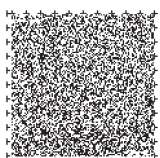
“りいぶる” 図書・交流スペースで開催された「特設コーナー」をご紹介します



「本に乗って行く! 日本列島の旅」を開催。各都道府県が舞台になっている小説、エッセイ、詩集などを取りあげ、日本列島の地図の周りに本を配架しました。



「ほっと一息... あなたの心にぬくもりを」
自分の生き方、暮らし方、健康、食事のことなど、年末年始にゆっくりと読書を楽しめるような癒しの本を集めてみました。





「みんなに男女共同参画」提案事業

わたしとあなたとソラと本 企画・運営：御坊市男女共同参画推進グループ ウイズ・ア・スマイル

2023年11月18日（土）会場：御坊総合運動公園

「みんなちがってみんないい」をテーマに公園内の絵本の読み聞かせポイントをウォークラリー形式で回りながら、参加者が意見を交換していく野外イベントを開催しました。

SDGs 暴力を許さない わたしたちにできること 企画・運営：cocoro サポート・ネット「カミーニョ」

2023年11月25日（土）会場：“りいぶる”会議室 A

ドメスティック・バイオレンス（DV）の実態と被害者が必要とする支援について、講師のDV被害の経験に基づく講座を開催しました。

川合小梅の生涯から学ぶ 200年前の女性活躍 企画・運営：小梅日記を楽しむ会

2023年11月29日（水）会場：“りいぶる”会議室 A

幕末和歌山の城下町での日々を記した川合小梅について、絵本やオペラ鑑賞を通して、彼女の残した膨大な「小梅日記」から、男女共同参画についてのヒントを探る講座を開催しました。

身近に起こりうる性被害 ～大切な子どもを守るために～ 企画・運営：ココニハ&ファースト・ステップ

2023年12月16日（土）会場：“りいぶる”会議室 A

性別にかかわらず、だれもが性被害に遭う可能性があることや、「性的グリーミング」など子供への性暴力について知り、私たちができることを共に考える講座を開催しました。

幼児期からはじまる 大切な生・性のおはなし 企画・運営：SAYHELLO. WAKAYAMA

2024年1月28日（日）会場：“りいぶる”会議室 A

子供たちが自分の心と体を大切にできるよう、幼児期から家庭でできる性教育について、親子で一緒に学ぶ講座を開催しました。

※来年度も「提案事業」を募集予定です。みなさまのご応募、お待ちしております。

“りいぶる” 図書室

☆スタッフおススメ図書☆



おっさん社会が生きづらい



著者：小島慶子
出版社：PHP 研究所

これまで忌み嫌ってきた、威圧的で人の話をきかず、権力に従順で、しかもそれらの自覚は全くなしという“おっさん的な感性”は、作者自身の中にもあった！、とある経験を機に気づいた作者が、男女問わず多くの日本人に染みついた“おっさん性”からどのようにして脱却できるか、自分らしく生きることを否定するおっさん社会をどう生き抜くか、そのヒントを求めて5人の識者と考察する対話集。もしかしたら、あなたも“おっさん”かも!?

カサンドラのティータイム



著者：櫻木みわ
出版社：朝日新聞出版

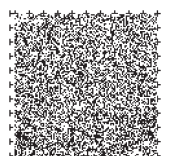
仕事仲間からキャリアや将来を奪われた友梨奈と夫からの罵詈雑言に悩む未知。身近な男性にモラハラを受けながら、周囲にその苦しみを理解してもらえない「カサンドラ症候群」の女性が抱える孤独は計り知れない。そんな二人が出会い、会話を交わす中で、自分の抱えてきた問題を見つめ直し、立ち向かう覚悟を決める。二人が選択するそれぞれの未来とは…。
絶望の中で僅かに見える希望の光。きつと誰かの力になる物語。

女の子がいる場所は（全1巻）



著者：やまじえびね
出版社：KADOKAWA
(ビームコミックス)

アフガニスタン、インド、日本など慣習や文化、価値観の異なる国に暮らす10歳の女の子たちが主人公の短編集。「女の子だから」という理由で選択の自由や自立の機会を奪われる現実に気づき、自身の未来や生き方に志をもつ。ページをめくって知ってほしい。結婚相手を決められたり、学校に行けなかったり、男性より優秀であることを良しとされない社会があることを。





自分を大切にするために…。

“りいぶる” 相談室 相談受付専用ダイヤル

073(435)5246

相談は無料。専門の相談員がお話をうかがいます。予約は、希望者本人に限ります。秘密は厳守します。ナンバーディスプレイは使用していません。

総合相談

家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に男女共同参画相談員が応じます。

電話相談

☎☎☎☎☎☎ 9:00～20:30
(受付は20:00まで)

〇〇〇〇〇〇 9:00～17:00
(受付は16:30まで)

面接相談【要予約・女性のみ】

☎☎☎☎☎☎ 9:00～17:30
(受付は16:30まで)

〇〇〇〇〇〇 9:00～16:00
(受付は15:00まで)

女性のためのカウンセリング

女性が抱えるこころの問題に女性力カウンセラーが応じます。

面接相談または電話相談

〇〇〇☎☎☎ 13:00～15:40
※原則毎月第2金曜日・第4土曜日

要予約(匿名可)、各日3人まで。
相談時間は1人40分。

男性のための電話相談

職場のストレスをはじめ、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

女性のための法律相談

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

面接相談のみ

毎月2回(不定期)13:00～14:50

※日程は“りいぶる”までご確認ください。

要予約、各日3人まで。
相談時間は1人30分。

〇☎〇〇〇〇 16:00～20:00

(受付は19:30まで)

※毎月第2水曜日 / 予約優先(匿名可)
1日5人、相談時間は1人40分。

LGBTQ 相談

レズビアン(L)・ゲイ(G)・バイセクシャル(B)・トランスジェンダー(T)など、様々な性的指向や性自認の方のための専門相談窓口を開設しています。本人からの相談だけでなく、ご家族や友人、職場の関係者など周りの方からの相談もお受けします。秘密厳守、匿名での相談も可能ですので、安心してご相談ください。

面接相談または電話相談 〇〇〇〇☎☎ 14:00～18:00

※原則毎月第1土曜日 / 要予約(匿名可) / 1日4人、相談時間は1人40分。

令和6年度の相談日(予定): 4/6, 5/18, 6/1, 7/6, 8/3, 9/7, 10/5, 11/2, 12/7, 1/18, 2/1, 3/1



性暴力について
相談したい…

性暴力救援センター和歌山 わかやま mine (和歌山県立医科大学附属病院内)

◆相談受付専用ダイヤル 073-444-0099

- 電話相談 24時間365日(但し、22時～翌朝9時と年末年始はコールセンターでの対応となります)
- 面接相談 9時～17時45分 ※要予約、土日・休日・年末年始を除く
- 緊急医療 24時間365日

ここからだの回復のために、女性支援員が細やかな支援を行います。ひとりで悩まずに相談してください。



☆表紙デザインについて☆

作者の浦谷真々さんは、漫画を描くことが好きな子供時代を過ごすなか絵を独学で学び、(公財)和歌山県人権啓発センターの啓発資料制作、和歌山市男女共生推進センター『みらい』広報誌の4コマ漫画制作などに携わりました。現在は、生まれ育った和歌山を離れ、兵庫県で子育てをしつつ、趣味として楽しみながら絵を描いています。

表紙イラストは、ハチドリたちがそれぞれの希望を胸に、楽しそうに飛びまわる姿です。

“りいぶる”はフランス語で「自由な(libre)」という意味で、当センターの愛称です。

★LINE アカウント★

LINE“りいぶる”
公式アカウント
はこちら



〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

TEL 073-435-5245 FAX 073-435-5247

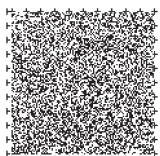
E-mail: libre@sirius.ocn.ne.jp

【開館時間】 火曜～土曜: 午前9時～午後9時

日曜: 午前9時～午後5時30分

【休館日】 月曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)

▼フェイスブックも更新中▼



りいぶる

「りいぶる」で検索してね!

◆発行◆ 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

—企画・編集 特定非営利活動法人 和歌山eかんぱにい—



和歌山ビッグ愛の9階にあります!